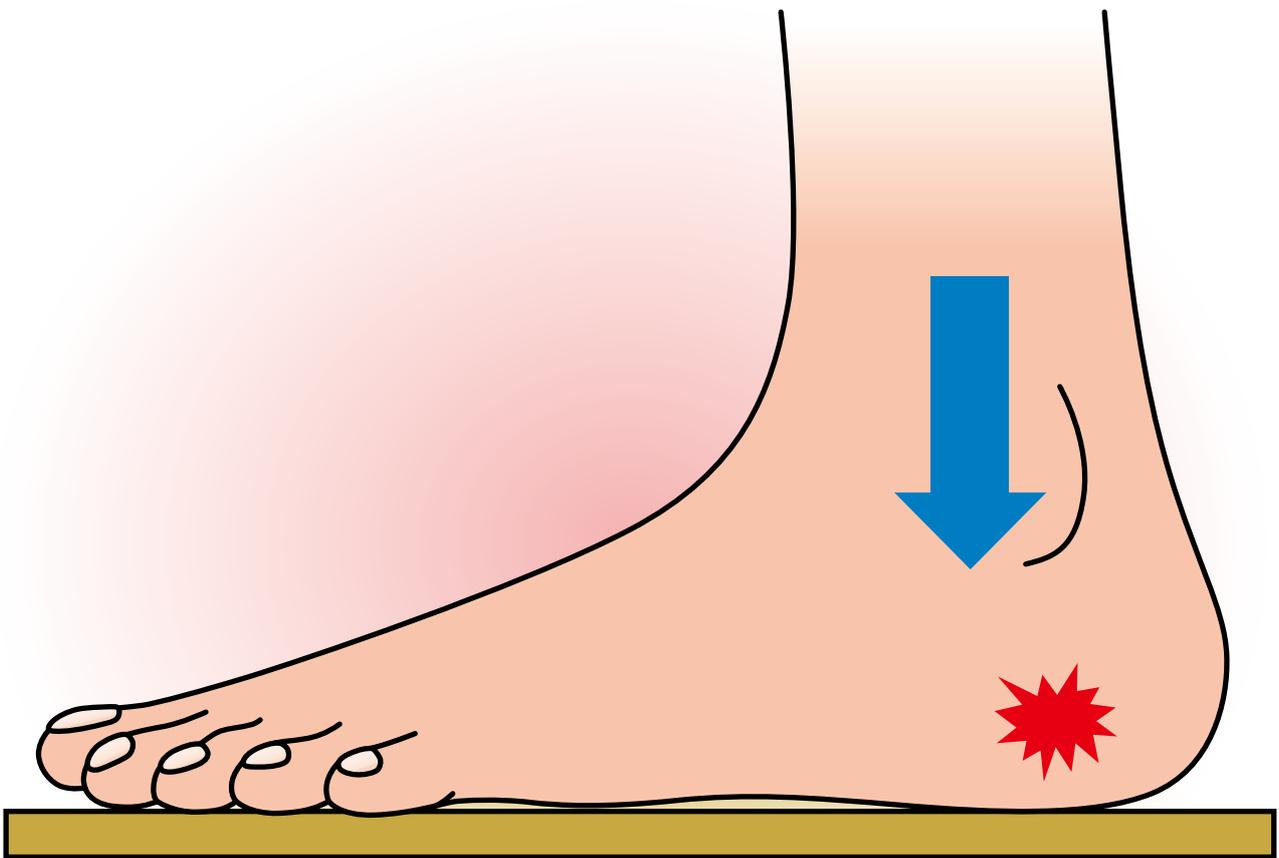


踵 骨 骨 折

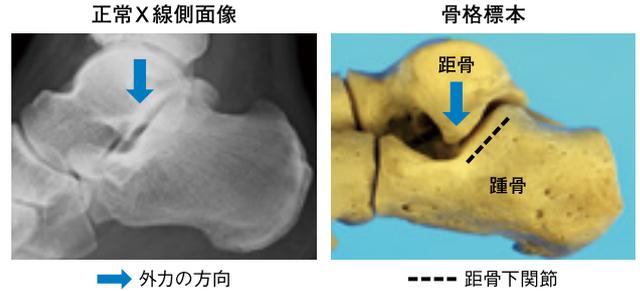


踵骨骨折

症状

◆ 踵骨（関節内）骨折とは

転落等による垂直方向の外力で距骨下関節（前、中、後関節面）が骨折した状態である。後関節面の骨折が主である。



◆ 症状

後足部の腫脹、圧痛、自発痛あり。受傷時より腫脹が増悪してきてから疼痛が増強することも多い。足部コンパートメント症候群を来す場合もある。後足部の接地は一般に困難である。

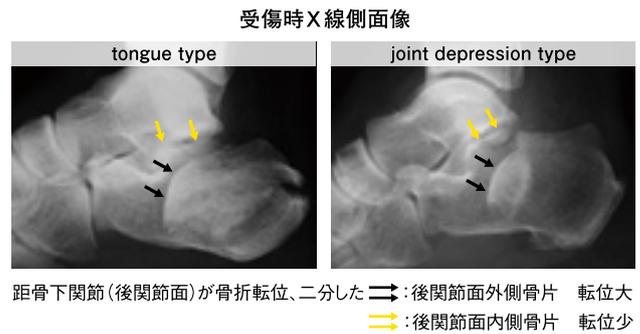
原因 病態

◆ 受傷原因

高所からの転落など、踵骨に垂直方向の負荷が加わることが原因とされる。

◆ 病態

関節面の転位により関節痛を来し、長期的には関節症を生じる。さらに骨折により関節面以外も転位し、踵骨の内反または外反、外側凸、扁平化等の変形を来し、足部に様々な疼痛を引き起こす。



診断

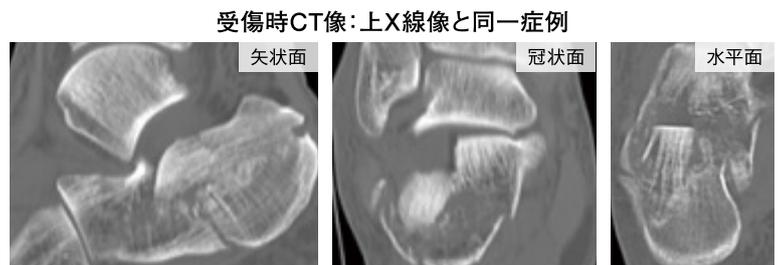
◆ 単純X線検査

側面像、軸射像、アントンセン撮影等、多方向の撮影で骨折を確認する。



◆ CT検査

単純X線像で転位のある骨折が確認された場合は必須である。3次元に関節面と踵骨全体の転位がとらえられるので、治療方針の決定等、有用な情報が得られる。



CTでは関節面の転位のみならず、踵骨全体の3次元の転位が確認できる